

図4 比屋根湿地・泡瀬地区海岸の環境問題等の現況

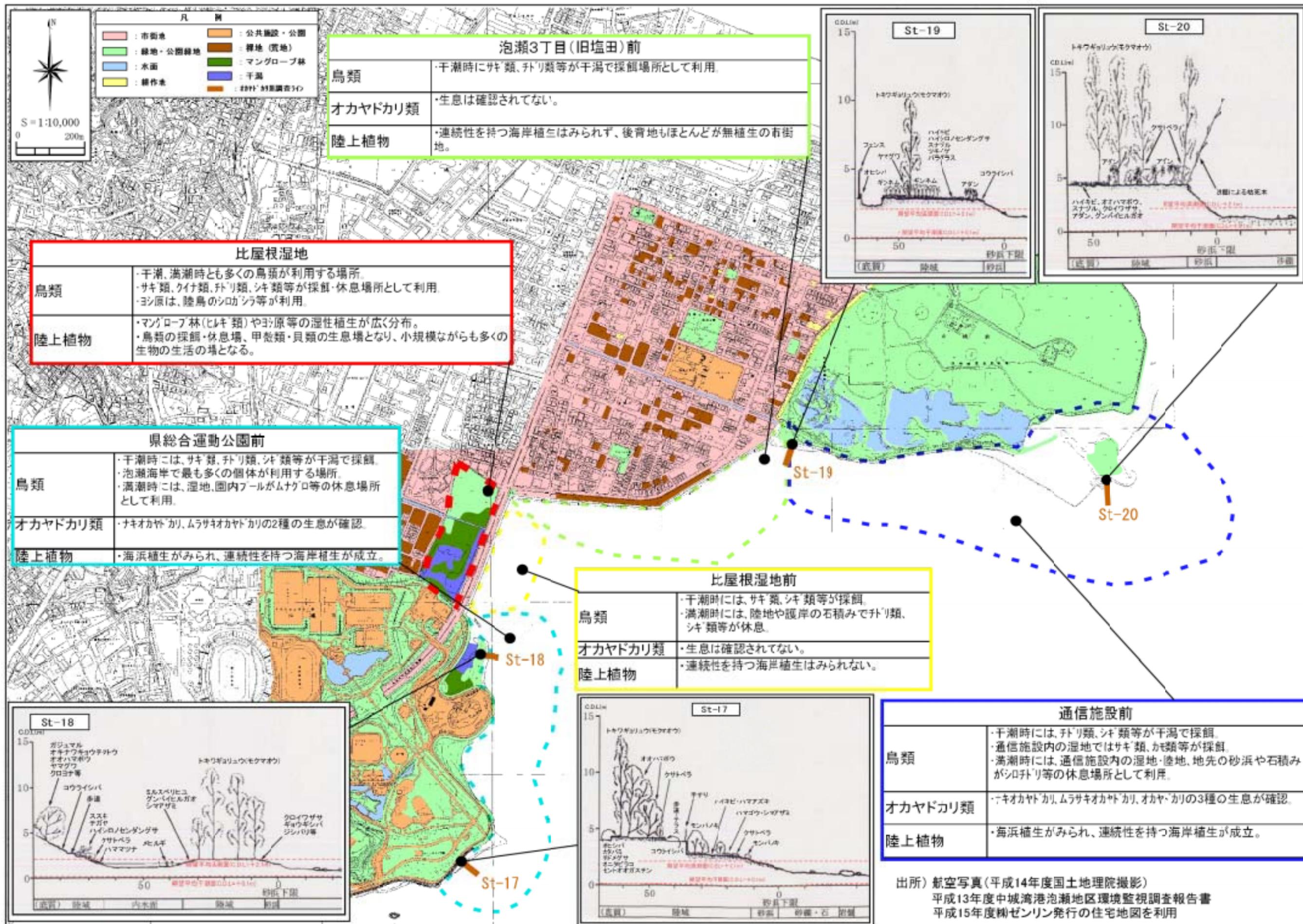


図5 自然特性(陸上動物、陸上植物)の整理

1.2自然特性の整理

自然特性の整理にあたっては、平成12年から平成15年にかけて実施されている「中城湾港泡瀬地区環境監視調査」等の既存資料を中心に整理した。

(1) 比屋根湿地

項目	特性(既存資料内容)	備考
1)陸上生物 鳥類	<ul style="list-style-type: none"> ・満潮、干潮時ともに鳥類による利用があり、県総合運動公園前の干潟に次いで多くの鳥類に利用されている。 ・南側はマンローブ湿地、北側はヨシ原といった環境が形成されている。 	<p>H17年度に以下の詳細調査を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥類調査 ・場としての機能把握 ・採餌状況把握 <p>調査の根拠、内容は資料-4を参照。</p>
2)水生生物 干潟生物	<p>未調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湿地内は、マンローブ湿地に特有な生物が多数確認されており、規模は小さいながらも多様な環境を有していると推測される。 ・藻類、湿地中央部の砂泥地の生物相、北側のヨシ原と水路での生物相は不明。 	<p>H17年度に以下の詳細調査を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 底生生物調査、魚類調査 ・底生生物の生息状況(種数、密度)把握 <p>調査の根拠、内容は資料-4を参照。</p>
マクロベントス	<p>未調査</p>	
3)陸上植物	<ul style="list-style-type: none"> ・比屋根湿地は中央部を流れる水路を挟んで南側に干潟とマンローブ林、北側の陸化した地域にはヨシ原が広く分布する。 ・モクマオウ林、オオハマボウ群落、ギンネム群落等の林のほか、帰化植物であるヒイラギギク群落の生育も確認されている。 ・比屋根湿地内の植物相は不明。 	<p>H17年度に以下の詳細調査を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物調査(植生、植物相) ・植生図の作成 ・植生断面図の作成等 <p>調査の根拠、内容は資料-4を参照。</p>
4)水質・底質	<p><水質></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨水排水路から湿地内に汚濁水の流入がある。湿地内のCODは7.0~9.4mg/Lで、干潟と水の出入りがあるボックスカルバート付近では低い値となっている <p><底質> 未調査</p>	<p>H17年度に以下の詳細調査を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水質・底質調査 ・水位・流量 ・水質：COD、窒素、リン、SS ・流末管形状調査 ・底質：COD、粒度組成等 <p>調査の根拠、内容は資料-4を参照。</p>

(2) 泡瀬地区海岸

項目	特性(既存資料内容)	備考
1)陸上生物 鳥類	<ul style="list-style-type: none"> ・泡瀬地区海岸に生息する野鳥は、干潮時に干潟一帯でシギ・チドリ類等の採餌行動、休息が見られ、満潮時には比屋根湿地等に移動し休息するなど、潮汐の干満に応じて野鳥の活動場所・形態などが異なる。 ・上げ潮時のシギ・チドリ類やサギ類等鳥類の主なねぐら、または満潮時における休息地として利用されているのは、通信施設内、及び比屋根湿地、海上にある人工島建設予定地、海上西方沖にある防波堤、運動公園内のプール施設の合計5箇所と考えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然特性図p7を参照
オカヤドカリ類	<ul style="list-style-type: none"> ・県総合運動公園前海岸及び泡瀬通信施設前海岸では、ナキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、オカヤドカリの3種の生息が確認されている。 ・消波ブロック及び直立護岸区間では、植生がなく生息は未確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然特性図p7を参照
2)水生生物 干潟生物	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟生物は、底質と潮位に応じて出現する生物が異なる傾向にある。 ・通信施設前を除き、全域で内湾に生息するウミコケ類の個体数が多い。 ・通信施設前では、藻場に特有なコウガイ類等が、砂地では、砂地に特有なタマガイ類、コマツガニ類、礫地ではカギクやアサジケマコガイ等が見られる。 	<p>H17年度に以下の詳細調査を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 底生生物調査、魚類調査 ・底生生物の生息状況(種数、密度)把握 <p>調査の根拠、内容は資料-4を参照。</p>
マクロベントス	<ul style="list-style-type: none"> ・比屋根湿地前で多くの個体数が出現する。 ・県総合運動公園前、通信施設前では汚濁指標代表種の出現種数が少ない。 ・汚濁指標代表種は、泡瀬第一雨水幹線(通信施設前)の出口付近で多く出現する。 	
3)陸上植物	<ul style="list-style-type: none"> ・通信施設前及び県総合運動公園前では、海浜植生がみられ、連続性を持つ海岸植生が成立している。 ・泡瀬地区3丁目(旧塩田)前、比屋根湿地前では、連続性を持つ植生はみられず、前者はその後背地もほとんどが無植生の市街地となる。 	<p>H17年度に以下の詳細調査を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 植生調査(植生、植物相) ・植生図、植生断面図等 <p>調査の根拠、内容は資料-4を参照。</p>
4)水質・底質	<p><水質></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨水排水路からCOD9.4~16.0mg/lの汚濁水が干潟へ流出。 ・沖合から海岸域に流れる潮流により水質は0.9~2.5mg/Lを示している。 <p><底質></p> <ul style="list-style-type: none"> ・湿地の泥質域、干潟の礫・粗砂域でCODは高く還元状態にある(有機物量が多い)。 	<p>H17年度に以下の詳細調査を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分水嶺毎の水質調査 水質・底質・水位・流量調査 <p>調査の根拠、内容は資料-4を参照。</p>

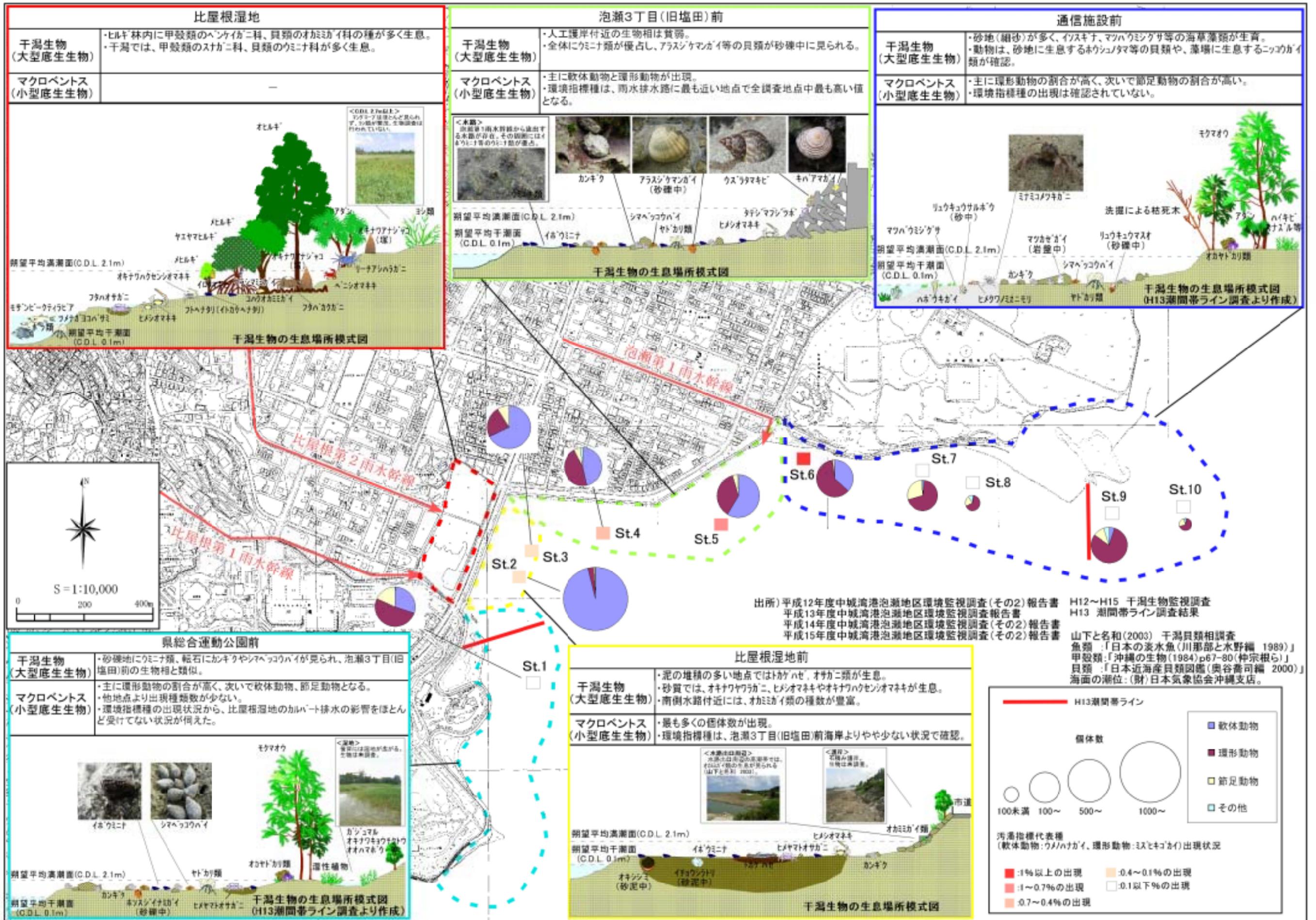


図6 自然特性(水生生物)の整理